

鹿島宇宙技術展示館のETS-VIIIのコーナー

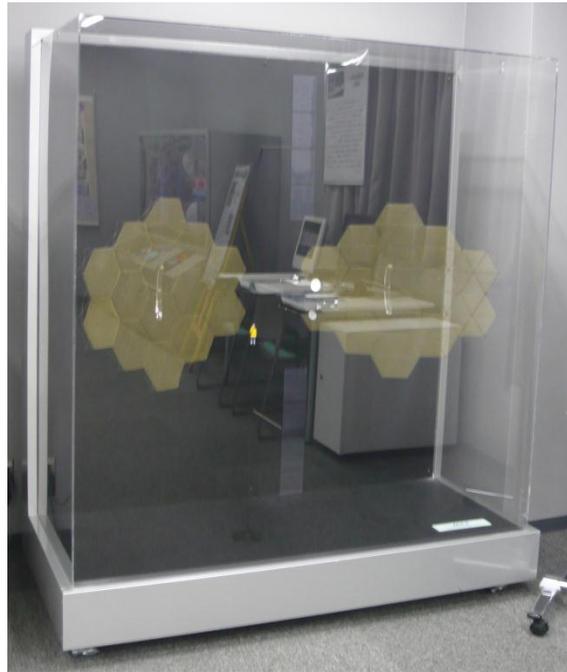


今期実験の為、
現在は展示してません。

鹿島宇宙技術展示館の一角にETS-VIIIのコーナーがあります。
ここでは、ETS-VIIIの1/30模型や、今まで実験で使用した装置
を展示しております。



ETS-VIII 1 / 30模型



技術試験衛星Ⅷ型『きく8号』(ETS-VIII)はH-IIAロケット11号機により2006年12月に打ち上げられた8番目の技術試験衛星です。

この衛星の特徴は、大きさが1枚約17m×19mもある巨大なパラボラアンテナを搭載していることです。このアンテナを宇宙空間で広げることで衛星は高い送受信性能を得ることができ、地上では携帯電話と同じくらいの大きさの通信端末を使って直接衛星と通信を行うことができるようになります。

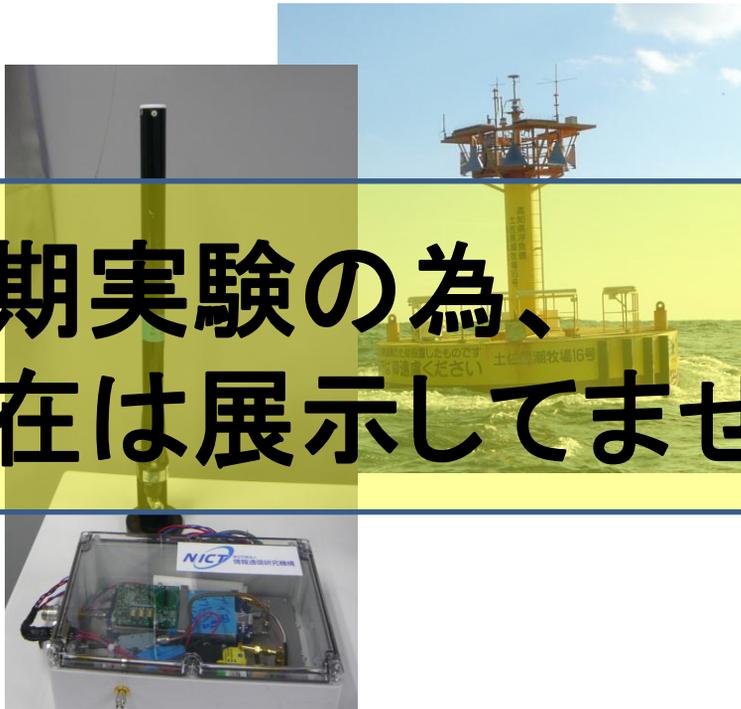
情報通信研究機構ではこの大型アンテナの送受信ビームを日本のいろいろな方向に作ることができるBFN(ビームフォーミングネットワーク)という装置を開発、音声やデータの交換機及び高い精度の原子時計などを衛星に搭載して移動体衛星通信や衛星測位システムの研究を行ってきました。

実験装置の展示



ETS-VII衛星実験で使用した携帯端末装置
(平成15年3月)

今期実験の為、
現在は展示していません。



ETS-VIIを用いた海上ブイからのデータ伝送実験ブイ
に搭載した小型地球局とヘリカルアンテナ
(平成24年10月)

